

神戸大学経営リサーチメソッド・セミナー／経営行動科学学会研究会(理論・方法部会)

Kobe Univ. Management Research Method Seminar/

Methodological Seminar of the Japanese Association of Administrative Science

テーマ 構造方程式モデル (SEM) の将来性を探る

Theme: In search of the prospects of structural equation modeling (SEM)

主催 神戸大学大学院経営学研究科・経営行動科学学会

ビッグデータやネットワーク情報など、データ・テクノロジーが限りなく進歩した現代社会。学問として経営現象を見た場合、個人情報保護の名目で、調査やデータ収集が実施しにくくなり、聞き取りやケース分析を通じた質的アプローチの数が徐々に増えている。一方、最先端の経営学的研究方法論として、マルチレベル分析と並んで、構造方程式モデル(SEM)/共分散構造分析(CSA)が注目されている。▼構造方程式モデル(SEM)とは、構成概念や観測変数間の関係性を調べるために、多くの観測変数を同時に分析する統計的方法である。観測変数や潜在変数間の関連性を、理論や仮説に基づいて、パス図の形式で構造化・モデル化し、データからパス係数を推定することによって、変数間の因果関係を統計的に検討するものである。▼現在、構造方程式モデル(SEM)には、大きく2つの系統がある。共分散に基づく解析モデル(たとえば共分散構造分析:CSA)と、分散に基づく解析モデル(たとえば偏最小二乗パスモデル:PLS)である。似た目的で使われる分析でありながら、共分散モデルと分散モデルとでは、それぞれに特長がある。▼本セミナーでは、神戸大学鈴木竜太教授から、構造方程式モデル(SEM)が果たしている経営学に対する方法論的意義を概説していただく。引き続き、構造方程式モデルの先駆者クリスチャン・リングル教授(ハンブルグ工科大学)の薫陶を受けたカイ・オリヴァー・ティーレ氏をお迎えし、偏最小二乗構造方程式モデル(PLS-SEM)の分析の仕方を、Smart PLSという汎用性の高い解析ソフトを使いながら解説いただく。高度な分析テクニックに気後れして、構造方程式モデル(SEM)になかなか踏み込めなかった方にも、わかりやすく理解していただけることをめざしていく。

会 期 2015年11月23日(祝) 14:00から17:00 (開場13:30)
会 場 神戸大学梅田インテリジェント・ラボラトリ (梅田ゲートタワー8階)
アクセス: <http://www.b.kobe-u.ac.jp/ilabo/access.html>

話題提供 鈴木竜太 (神戸大学大学院経営学研究科 教授)
Kai Oliver Thiele (ハンブルグ工科大学／神戸大学経済経営研究所)
企画・司会 高橋 潔 (神戸大学大学院経営学研究科 教授)

定員50名(参加費無料) 本セミナーは、日本語と英語による多言語形式で行われます。
会場準備の都合上、神戸大学高橋宛て(ktakahas@kobe-u.ac.jp)メールにて事前登録してください。